

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 7 月 27 日

所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ専攻博士 1 回
氏名	横塚 彩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高高原
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 7 月 22 日 ~ 平成 26 年 7 月 25 日 (日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学笹ヶ峰ヒュッテ
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習は、妙高山の自然環境を通してフィールドワークの基礎を学ぶものであった。
1 日目は笹ヶ峰ヒュッテ周辺を歩きながら、周辺環境の植生や歴史を杉山先生にご紹介いただいた。夕食後にたき火の効果的な炊き方をレクチャーしていただいた。
2 日目の午前中は登山道を離れ、沢を上ったり、藪の中、木につけられたピンクのロープをたよりに道無き道に行く実習を行った。山の歩き方、転ばない歩き方などの歩行技術を具体的にアドバイスいただきながら歩いたが、普段の生活ではなかなか意識することがないのでなかなかうまくいわずに沢で転びカメラを破損させるトラブルもあった。午後に地形図の読み方、コンパスの使い方、ロープワークなどを国立極地研究所の樋口さんに講習していただいた。幸島実習でも地形図をよむ機会があったが、あまり自信がなかったので、改めて講習していただき、地図の読み方が分かるようになった。またロープワークは、フィールドで実際に利用できそうなものをたくさん教えていただいた。
3 日目は 4:30 に起床し、火打山へ登山に行った。標高があがり、気温がさがると植生に変化がでてとても興味深かった。頂上付近になると風も強く、雨も降ってきて体力的にもつらくなったが、環境の変化に敏感に目を向けることの大切さを学んだ。火打山は登山道を利用したが、途中で岩場や、ぬかるんだ道があり、楽しいコースではなかった。登山は何度かしたことがあったが、初めて約 12 時間の登山を経験した。
最終日は、ビバークについて樋口さんより講習いただいた。ツェルトをどんな場所や方向で張ればいいのか、ペグがない場合はなにを利用すればいいのかなど、実際に履修生もツェルトを張りながらレクチャーをしていただいた。私は「ビバーク」という言葉すら知らなかったので、本当の緊急時にどのような行動をすればいいのか具体的に理解することができた。
今回の実習を通して、厳しい自然環境でも対応できる体力と、そういった環境下でも自然植生にも目を向けられる広い視野が重要だと感じた。積雪期の登山は経験がないので今回以上にハードになると思うが、フィールドで使える技術や姿勢が身に付くのではないかなと思う。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

●沢のぼり●



●ヒュッテ周辺●



6. その他 (特記事項など)

国立極地研究所樋口さま、杉山先生、おいしい料理を作ってくれた京都大学山岳部学部生のお二人に感謝いたします。ありがとうございました。